

特集

人口減少・超高齢社会に向けたまちづくり

将来的に持続可能なまちを目指して

詳細 まちづくり推進課 ☎(32)6054

現在の日本は人口減少・超高齢社会を迎える歴史上の大きな転換点にあります。苫小牧市においても2035年には、人口が約142,000人に減少し、高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)は36%(2009年20.4%)になると予測されています。このような社会を迎えるにあたっては従来のまちづくりではなく、新しいまちづくりが必要になります。今後のまちづくりの方針について市民の皆さんにお知らせします！



市役所12階から見た「まちなか」の風景

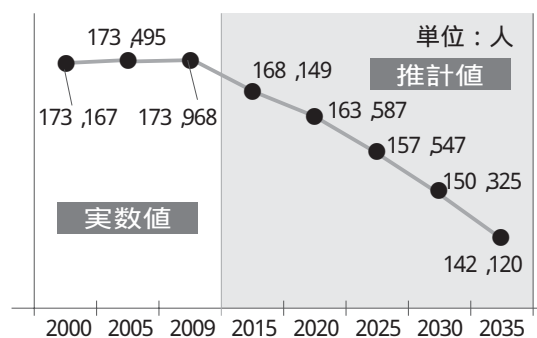
新しいまちづくりの必要性

人口減少・超高齢社会に備えて

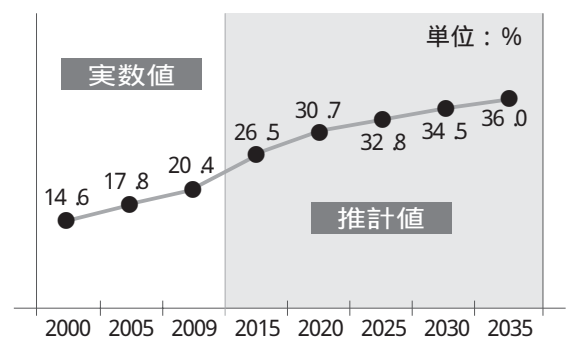
高度経済成長期から現在に至るまで、苫小牧市は人口増加と車社会へのライフスタイルの変化により、居住地域、商業、福祉、病院などの公共サービスの都市機能は郊外に分散し、多くの市民の生活圏は郊外に移りました。しかし、将来の苫小牧市の人口推計では、人口減少が続く、高齢化率が高くなることが予想されています。

人口減少、高齢化が進行する中、このまま都市機能の分散が続くと、市民サービスの質の低下や都市の維持管理費用が増大し、快適な都市生活の維持が困難になってしまふことが考えられます。また、郊外での生活は車の使用を前提としているため、生活の移動に不安を抱える高齢者や車への依存を望まない市民への対策も必要になってきます。

人口推移(推計値を含む)



高齢化率の推移(推計値を含む)



2009年までは実数(各年12月末)、2015年からは推計値(資料:国立社会保障人口問題研究所)。高齢化率21%以上になると「超高齢社会」といわれ、苫小牧市では2015年には超高齢社会になると推計されています。

今後のまちづくりの方向性は、人口減少・超高齢社会に対応した「持続可能なまちづくり」に向けた制度設計が求められています。都市機能の拡散傾向に歯止めをかけ、多様な都市機能がコンパクトに集積したコンパクトシティ、すなわち、高齢者を含めた多くの人々にとって暮らしやすい、歩いて暮らせるまちづくりを進めることが必要と考えられます。

商業全体の活性化のために

現在の日本の商業界では、郊外型大規模店の出店などによる商業床面積の急拡大や安売りなどの商品販売価格競争、情報化社会の進展による消費動向の変化などにより、地域の商業全体が落ち込む状態となっています。苫小牧市においても、小売業の売場面積が増加しているにも関わらず、年間販売額が減少しています。人口減少社会での商業床面積の拡大や低価格競争は勝者なき消耗戦となってしまうことが懸念されます。

この状況を変えるためには、安い物を大量に売るシステムだけではなく、価値のある物をゆとりよく楽しむことができるシステムを取り入れることも必要です。大型店やロードサイド型の店と競合しない店舗を展開し、地元産品の取り扱いを増やし、売り上げの中で地元で落ちる部分を増やすことが重要と考えられます。

新しいまちづくりの最適地

今後の人口減少・超高齢化を考慮して新しいまちづくりを進めるためには、さまざまな公共施設や商業施設などの都市機能が集約している場所に、暮らしやすい生活空間としての機能を充実していくことが重要です。そのためには、投資の効率性の良い場所、すなわち、「まちなか」を中心とした、誰もが暮らしやすいコンパクトシティを形成することが最適です。

また、大型店やロードサイド型の店舗と競合しない店舗を展開するためには、すでに基盤が整備されており、地域の核として機能する「まちなか」が最適地といえます。

まちなかの主なできごと

年	できごと
明治25年(1892)	国鉄室蘭線開通(苫小牧駅開業)
明治43年(1910)	王子製紙苫小牧工場操業開始
昭和27年(1952)	鶴丸百貨店オープン
昭和48年(1973)	長崎屋苫小牧店オープン
昭和52年(1977)	ダイエー苫小牧店オープン
昭和53年(1978)	イトーヨーカドー苫小牧店オープン 駅前バスターミナル開設
昭和57年(1982)	新苫小牧駅完成、エスタオープン
平成2年(1990)	ファンタジードームオープン
平成6年(1994)	駅前通りシンボルストリート完成
平成7年(1995)	丸井今井苫小牧店オープン
平成9年(1997)	ファンタジードーム閉鎖跡に長崎屋苫小牧店移転
平成12年(2000)	ビッグジョイオープン
平成14年(2002)	鶴丸百貨店閉店
平成17年(2005)	ダイエー苫小牧店閉店 丸井今井苫小牧店閉店
平成18年(2006)	サンブラザが egao としてオープン ラルズマート苫小牧駅前店オープン ゼウスシティオープン
平成20年(2008)	ゼウスシティ閉店
平成22年(2010)	イトーヨーカドー苫小牧店閉店

そのため、今後は「まちなか再生」を進めることが、新しいまちづくりの重要なポイントになります。

「まちなか」のこれまで

苫小牧駅を中心としたまちなかは、明治25(1892)年の国鉄室蘭線の開通による苫小牧駅の開業と、明治43(1910)年の王子製紙苫小牧工場の操業開始から、苫小牧の「まちなか」として発展がはじまりました。

その後、市制施行やさまざまな公共施設の建設、苫小牧港の開港、市の人口の増加などとともに、駅を中心として形成されてきました。また、大型商業施設としては、昭和27(1952)年の鶴丸百貨店の開店を始めとして、長崎屋苫小牧店、ダイエー苫小牧店、イトーヨーカドー苫小牧店、丸井今井苫小牧店が開店し、

「まちなかとは？」



「まちなか」は住宅、職場、医療・福祉・教育・公務などの公共機能、商店などが歩ける範囲内に一体として備わっている場所で、区域はおおむね下図のとおりです。

